

交通に関する環境の変化

1 少子高齢化の進展

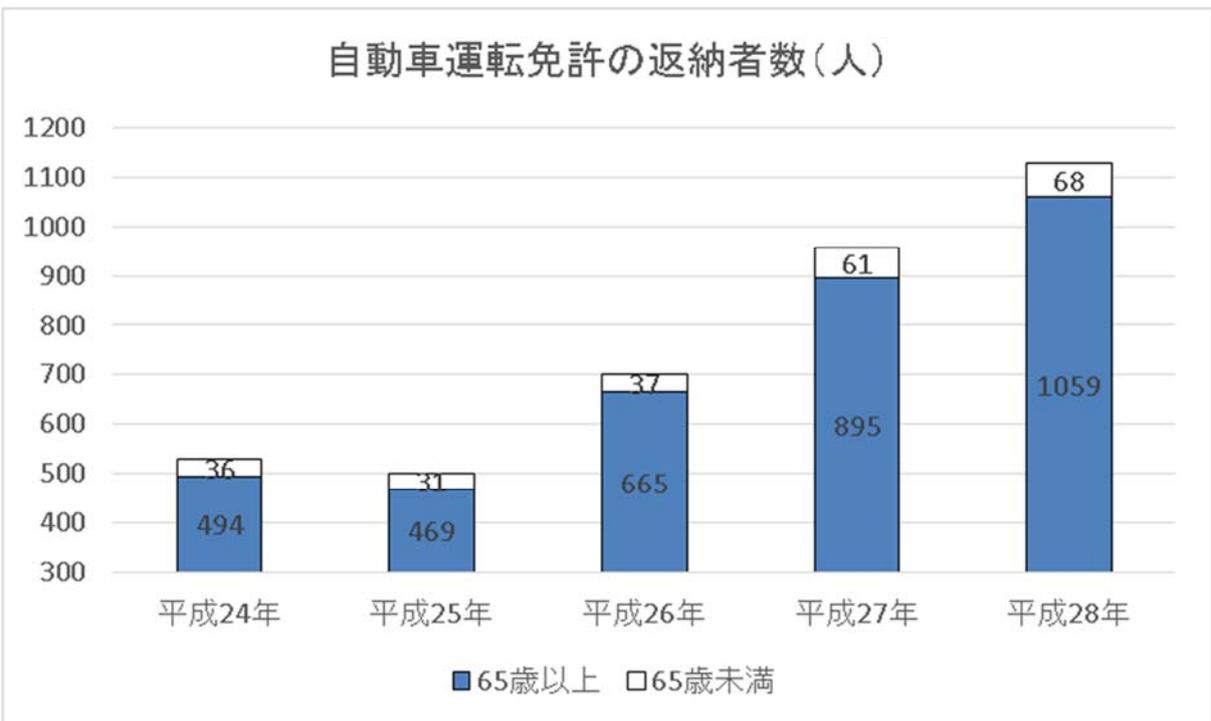
- ・ 本市の人口見通し：2050（平成62）年に約45万人（高齢者は約40％）
- ・ 自動車運転免許の自主返納者数：平成28年1，127人（平成23年の2倍）
 - ⇒ 移動需要の減少
 - ⇒ 免許を持たない高齢者（道交法の改正，自主返納者）や若者の増加
 - ⇒ 交通を担う人材の不足
 - ⇒ 生産・消費の縮小，医療費の増大

年齢区分別人口の推移



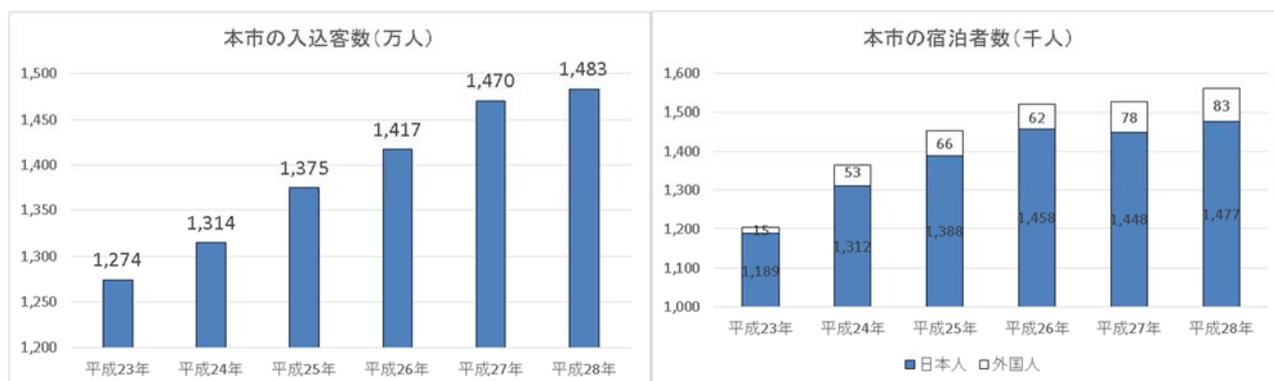
「宇都宮市人口ビジョン」における趨勢型の今後の人口見通しより

自動車運転免許の返納者数(人)



2 国内外の交流の進展

- ・ 本市の入込客数：平成28年1,483万人（平成23年の1.2倍）
 - ・ 本市の宿泊者数：平成28年156万人（平成23年の1.3倍）
- ⇒ 訪日外国人を含めた来街者の増加



3 大規模災害時の交通機能の確保

- ・ 東日本大震災や関東・東北豪雨の被害
- ⇒ 公共交通の災害対応力が問題化
- ⇒ 高度成長期に造られた交通インフラの耐震性が問題化

4 地球環境問題の深刻化

- ・ 市民一人あたりのCO₂排出量：平成27年度3.44t（平成25年度比7.5%増）
- ⇒ 地球温暖化による気候変動の深刻化
- ⇒ 交通に起因する環境負荷の増大

5 ICT技術など技術革新の進展

- ・ 自動運転システムなどの新技術の急速な進展
- ⇒ 公共交通への活用可能性の検討